

## 青年対策交流集會に参加して

関西地方阪神支部 西武嗣

第25回全港湾青年対策交流會が豊橋シーパレス2月22日～24日の2泊3日のスケジュールで開催された、阪神支部青年部から2名で参加しました。各地方活動報告し中央執行委員長の鈴木誠一さんによる全港湾の歴史について学習講座がありました。その中でも最も主張していたのは、『防衛整備計画』一昨年、岸田内閣により書き換えられた安保3文書の「防衛整備計画」では

- \* 「自衛隊・海保のニーズに基づき空港・港湾の公共のインフラ整備や機能を強化する」
- \* 「平素から地方公共団体、企業を含む政府内外の組織が安全保障に対する理解と協力を深める措置を講ずる」
- \* 「既存の空港・港湾などを運用基盤として必要な措置を講ずる」としている。

\* 有事になれば政府の判断で強制的に働かされるのが港湾労働者です。23中央港湾春闘で全国港湾労働組合連合会（全国港湾）は「港湾を兵站基地にしない」を要求した。

日本港運協会（日港協）は「平和を希求する思いは同感であり異論はない」と回答した。

※有事になれば政府の判断で強制的に働かせているのが我々港湾労働者、戦争になれば空港、港湾、原子力発電所が1番真っ先に狙われると聞きかなり危機感を感じました。各地方の代表者會議に出席し、今後の交流集會について各地方で意見を出し合い、毎年シーパレス開催でいいのかそれとも各地方で開催する方がいいのが、色々な意見を出し合いました。その中でも青年部に使える予算もあり、中央書記長松永さんからは現状では物価も高騰している中、非常に財形が厳しいと報告を受けました。1日目の学習講義、分散會が終了し、夕食懇談會がスタートしました。ここからが全国の青年達は目を色を変えて交流し、たわいもない會話で盛り上がりました、もちろん1次會では話は尽きず、2次會3次會、4次會まで交流を深めました。

2日目は中央書記長松永さんによる全港湾青年の歴史これからの全港湾について学習講義がありました。青年部について、活動内容は昔も今ま変わらない、どうやったら組合員が参加してくれるようなことができるのか。財政をどうやったら取れるのかなにもかも一緒。そのときそのときの時代に合わせたやり方っていうのはあると思いますんで、それを模索し、仲間を広げていく繋がりを深くしていく。皆さん若い人たちが本当に欲しい金額、これを求めるまで戦う旗を下ろさないという決意を持っていただければと思っております。と強調されましたまた分散會では全港湾オルグについてとこれからの青年部についての議論をしました。青年部はいかに交流を深め横の繋がりを広め次の世代へと呼びかけしていく事を再確認した。夕方にはレクリエーションのドッチボール大会があり、藤浪並みの荒れ玉豪速球を披露したが、私のチームは惜しくも準決勝で敗退した、優勝チームには景品としてAmazonギフトが手渡され、最下位チームには機関紙用の原稿1200字が授与された。

夕食懇談會でも2日目となれば、みな団結してモノマネや歌の合唱など大いに賑わった。

3日目は青年部年間スローガンの発表があり関西から、「全員が主役！若き力を！」選ばれました。中央本部の総括を終え全てのスケジュールが終了しました。

開催地方の名古屋、九州の方々お疲れ様でした。ありがとうございました。